



JA大阪市

ISSN 1342-3002

2022
winter

vol. 342

あたらしい繁栄の芽を皆様と

M O E

JA大阪市広報誌 萌

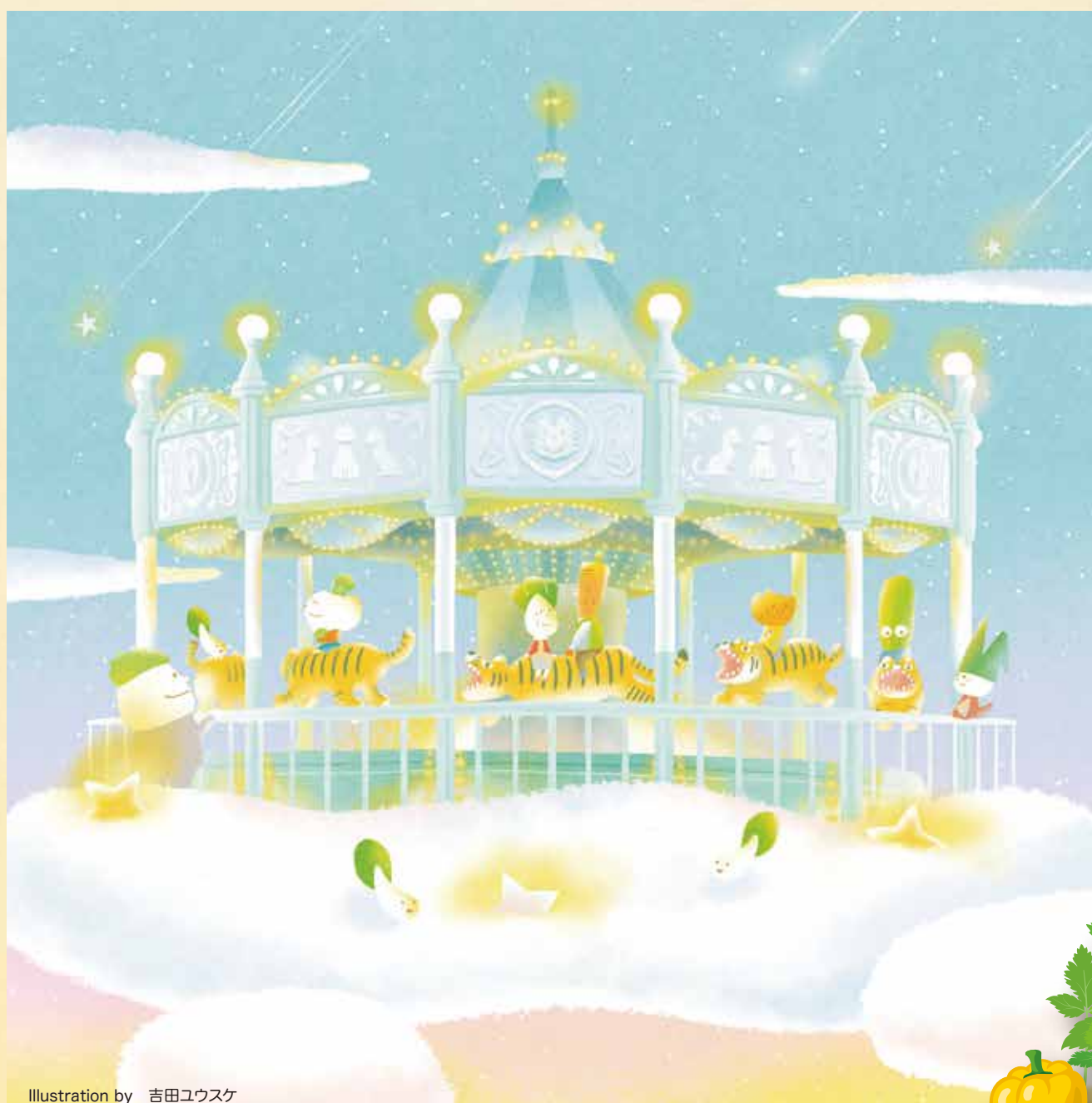


Illustration by 吉田ユウスケ



〈 冬号 CONTENTS 〉

2 年頭のご挨拶

4 直売所「おいで〜菜」情報

= 冬号特集 自己改革 =

5 自己改革実践サイクル

6 自己改革の基本目標と実践

① 農業者の所得増大

② 農業生産の拡大

10 ③ 地域の活性化

13 萌ニュース

14 お知らせ

15 よもぎコーナー／営業所一覧

16 進めよう国消国産

年頭のご挨拶



代表理事組合長

菱井 由一

続き感染防止対策は求められるものの、徐々に、経済活動が正常化していくことが見込まれます。

また、金融情勢では、米国が量的緩和政策の縮小に向けた動きを見せる一方、国内では、企業の資金繰り支援の観点からも、引き続き金融市場の安定が望まれることもあり、大規模な金融緩和は継続する見込みです。

あけましておめでとうございます。皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、当組合の事業運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、コロナ禍における3度の緊急事態宣言発令のため、経済活動が制限されましたが、大規模接種センターや職域接種を中心にワクチン接種が順調に進み、今日では全国民の7割超が2回目接種完了を迎えております。引き

続き感染防止対策は求められるものの、徐々に、経済活動が正常化していくことが見込まれます。

また、金融情勢では、米国が量的緩和政策の縮小に向けた動きを見せる一方、国内では、企業の資金繰り支援の観点からも、引き続き金融市場の安定が望まれることもあり、大規模な金融緩和は継続する見込みです。

当JAの事業におきましては、事業収益の減少が懸念される中、各業務部門の事業推進の結果、皆様のご協力のおかげをもちまして、現在のところ堅調に推移しております。本年も組合員・利用者の利益につながる商品・サービスを提供することにより、事業収益に繋がりたいと考えております。

本年も
よろしく
お願い
申します

代表理事組合長 菱井 由一

代表理事専務 福中 利夫

常務理事 合羽 雅彦

常務理事 田中 聡

常務理事 中川 誠

理事 井浪 一晃

岡田 尚士

林 育彦

木下 泰徳

山口 雄三

坂野 幸作

理事 磯田 一昭

榊井 勇

山野 吉英

青木 清明

樹富 加津

藪野 雄史

竹野 嗣夫

芝本 等

長谷 裕司

村井 富雄

冬号の表紙



Illustration by 吉田ユウスケ

干支のトラがメリーゴーランドに!
きらめく夢の世界に集う
JA大阪市キャラクター
「なにわ野菜ファミリー」

さて、新しい年を迎え、本年は、「北京冬季オリンピック・パラリンピック」が開催され、国内では7月に参議院議員通常選挙が予定されており、また、農政関係においては、生産緑地の「2022年問題」といわれる年にあたります。1992年に始まった生産緑地制度施行から30年を迎え、緑地指定を解除された農地が大量に不動産市場に出回ると予測され、農地の宅地化が進むことが懸念されています。引き続き、「特定生産緑地制度」の指定支援をはじめ、行政と連携のもと更なる相談機能を果たすとともに、農家組合員の皆様の負担に応えるべく取り組んでまいります。

当組合で現在推し進めておりますJA自己改革につきましては、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つの基本目標を軸に取り組んでまいりましたが、昨年6月、政府にて閣議決定された規制改革実施計画において、自己改革の継続に向けた仕組み「自己改革実践サイクル」の構築が明記されました。とりわけ、今後も引き続き准組合員との対話を行い、組合員の評価を踏まえて、改善・実行を繰り返すことが求められています。当組合でも昨年10月より「准組合員モニター制度」を開始し、直売所見学や収穫体験、役職員との意見交換会を通じて、准組合員との対話運動・意思反映に努めてまいりました。一過性のものとなることがないよう、引き続き、皆様との対話運

動を通じて、「不断の自己改革」に邁進する所存でございます。さらに、「JAグループSDGs取組方針」に基づき、防災協力農地への登録や移動販売の実施、直売所運営等を通じて、農地の保全と農業生産・消費の拡大に努めるとともに、安全・安心な農作物の提供と国産国産の促進を図り、地域貢献・食農教育関連事業を実施してまいります。

JA大阪市は国内でも屈指の都市型農協であります。営農部門の強化を図り、正組合員である農業者の営農と生活を支える事業だけではなく、准組合員である地域住民が必要とする生活サービスに至るまで、総合事業として今後も邁進してまいります。

また本年は、第8次中期経営計画の初年度にあたり、過去の反省を踏まえ、新たな第一歩を踏み出す重要な節目の年となります。地域から信頼され必要とされるJA大阪を目指して、役職員一丸となって取り組んでまいります。

組合員・利用者の方々のご意見を事業に反映させることで、より一層の信頼関係構築に努めてまいりますので、今後とも皆様のご支援・ご協力とともに、JA大阪市の更なるご活用をお願い申し上げます。

末筆ながらご家族・ご一同様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

理

2022



事 辻本 一	代表 監事	山内 幸夫
南野 利博	常勤 監事	文野 和彦
綿世 良一	監 事	瀧田 義治
山野 義秋	"	灰野 悦次
西川 光明	"	東野 富士雄
井田 一裕	員外 監事	辰巳 八栄子
平岡 美枝子		
林 登志子		

支部長代表協議会会長	内山 宗之
技術部会長	井浪 一晃
女性会会長	西川 昇子
年金友の会会長	小山 孝
直売所・朝市会会長	瀧田 義治
大阪市花き生産組合会長	梶井 俊範
大阪市なにわの伝統野菜生産者協議会会長	藤本 泰一郎
職員一同	

地元の農産物見に来て買いに来て
JA大阪市直売所
おいで〜菜



新米
入荷



組合員が育てたお米「ヒノヒカリ」を玄米で販売しています。お好みの精米度合いで、2kgから店内で精米。おいしい新米を是非ご賞味ください！

平野店

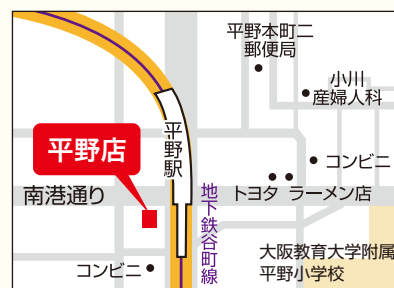
大阪市平野区平野西5-2-2

TEL.06-6702-7739

【営業日時】

月～土曜日（日・祝休み）

9:30～15:00



地下鉄谷町線「平野」駅⑥番出口すぐ

JA大阪市各支店を巡回！！

移動販売

売り切れ
次第終了

【販売時間】 10:00～12:00

各支店、曜日と週で実施日を固定して実施

※月によって実施しない支店があります。

また、月によって実施日程が変更になる場合もありますので、ご了承ください。



JAカード



直売所「おいで〜菜」でのお買物の際にJAカードでお支払いいただくと、5%割引に。移動販売でも使えます。ご質問・ご契約は各支店へ。

ポイントカード



直売所・移動販売での購入でポイントを貯めて、金券として使えます。直売所・移動販売で配布します。



Instagram

直売所の最新情報
配信中！

J A 大阪市の自己改革

J A 大阪市では、平成26年に政府がまとめた『農林水産業・地域の活力創造プラン』を契機とし、平成27年から「農業者の所得増大／農業生産の拡大／地域の活性化」を基本目標として、自己改革に取り組んでいます。

「規制改革実施計画」で示された自己改革への評価とレベルアップの促進

政府と与党での【農協改革】の議論を経て、平成28年に施行された【改正農協法】。その中には、「准組合員の利用規制の在り方について、法律施行日から5年間、正・准組合員の利用実態や農協改革の実行状況の調査を行った上で検討し、規制を導入するかどうかも含めて結論を出す」とありました。それに基づき、J A 大阪市でも自己改革に取り組み、全組合員（正組合員・准組合員）への大規模アンケートを実施するなど、農と地域に根ざした組織力の強化を進めてきました。

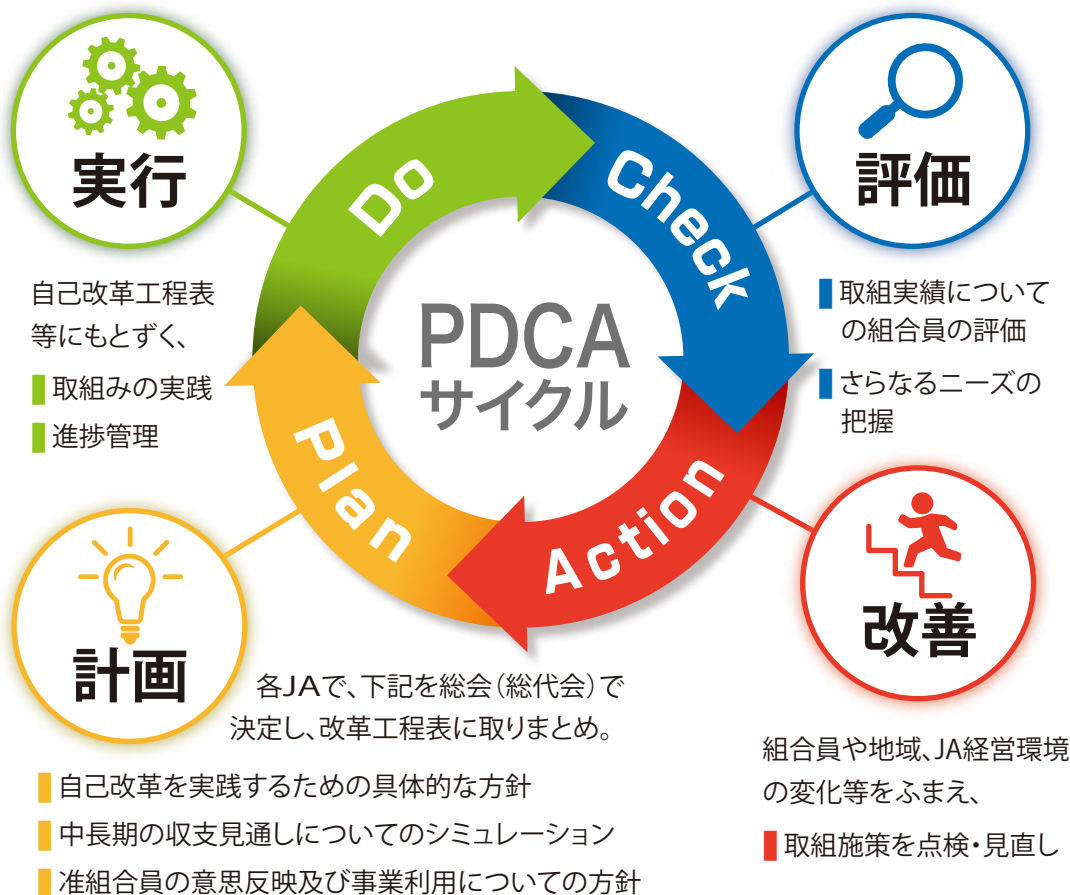
今年6月に閣議決定された【規制改革実施計画】には、「准組合員の事業利用規制については

各J Aが組合員との対話とそれに基づく方針を組合員の判断である総会（総代会）で決定し、自己改革実践サイクルの構築と実践に取り組んでいくこと」と記されています。

つまり、農協改革で課題となっていた准組合員の事業利用に、一律的な規制は導入しないという結論が出されたことになりました。また、自己改革実践サイクルとは、各J Aの取り組みを、組合員の評価を踏まえて改善・実行を繰り返す、いわゆるPDCAサイクルのことです。

今後は、組合員の皆様との対話を通じて、さらなる自己改革に取り組んでいくことが求められています。

求められる自己改革実践サイクル



自己改革の基本目標

「①農業者の所得増大」「②農業生産の拡大」

農業生産を拡大し農業者の所得増大をすすめるには、多様な販売経路の確保が重要です。また、様々なイベントを通じた消費者との交流は、農業者の生産意欲にも繋がっています。

常設直売所「おいで〜菜」 各支店を巡回する移動販売も

平成26年7月に直売所『おいで〜菜』本店が、平成29年6月に平野店がオープンしました。大阪市内農業のPRと、安心で安全な野菜類の提供(地産地消)を目的とした常設市場です。出荷者は農家組織の「直売所・朝市会」に登録しており、会員数は年々増加。売上高も順調に推移しています。令和元年度には本店を閉店し、各支店を月1回巡回する移動販売へ業態を変更。直売所へ通えない遠方のお客様より、好評をいただいています。

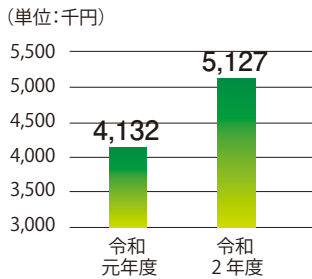
直売所



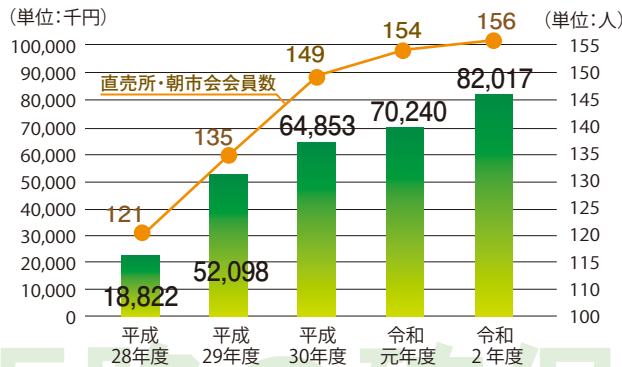
移動販売



移動販売売上高の推移



直売所売上高と直売所・朝市会登録者数の推移



多様な販路の確保

各種イベントでの即売会 生産者との交流の場にも

市内農家が生産した野菜・花苗の品評会や即売会などを行う、年に一度の大型イベント「大阪市農業フェア」。その他にも、都市部にあるJAセンタービルでの「夕市」、区民まつりなど地域イベントでの即売会などを実施。また東淀川支店では、技術部会主催で定期的に朝市を開催しています。こうしたイベントでは、生産者が販売に携わり、地元野菜の魅力を消費者へ直接PR。生産者と消費者の交流の場となっています。

農業フェア



夕市



即売会



※区民まつりでの即売や夕市、農業フェアなどのイベントは、新型コロナウイルス感染症予防のため現在休止しています。

直売所「おいで〜菜」から Instagramで旬を発信。販売促進に！



Instagramに投稿する
大西課長代理

初物や人気商品の入荷情報などを紹介しています。農家の皆さんが多品種の野菜を出荷してくれますので数量が少ない商品もあり、そんな情報もタイムリーにお伝えしています。馴染みのない野菜などがあれば、調理法やおすすめの食べ方なども掲載していますので、是非参考にしてください。

被写体選びや写真の撮り方など悩むことはありませんが、インスタを見て来店くださるお客様の声を聞くと、やって良かったと嬉しくなりますね。

Instagramを
スマホでチェック！



Instagram（略称インスタ）は、画像や動画を使ったコミュニケーションツール。若者世代から人気
が広がり、今では幅広い年代で利用されています。
直売所『おいで〜菜』では、昨年6月にInstagram
ラムを開設。入荷情報や商品解説を投稿しています。



直売所・移動販売での買物が お手軽にお得にできる 「JAカード」の普及！



直売所での購入が **5%割引**



「おいで〜菜」だけでなく

移動販売でも使えます



全国のJA直売所

での購入も **5%割引**

キャッシュレス時代に対応した便利なお買い物
ができるよう、直売所「おいで〜菜」平野店では、
令和元年6月にクレジットカード決済を導入し
ました。決済に「JAカード」を使えば、5%割引
でお得になります。この「JAカード」を普及し、
直売所での購入促進に繋げようと、「JAカード
キャンペーン」などを随時実施。直売所での「JA
カード」の利用は、元年度6%程度でしたが、2
年度には倍増するなど、徐々に広がっています。
更に今年度からは、移動販売での「JAカード」
の利用が可能となり、好評をいただいています。
店舗によっては、移動販売時にテントブースを設
け、先着「JAカードキャンペーン」を実施するこ
とも！「JAカード」の詳細説明も致しますので、
お気軽にお立ち寄りください。

農業講座で生産者の育成

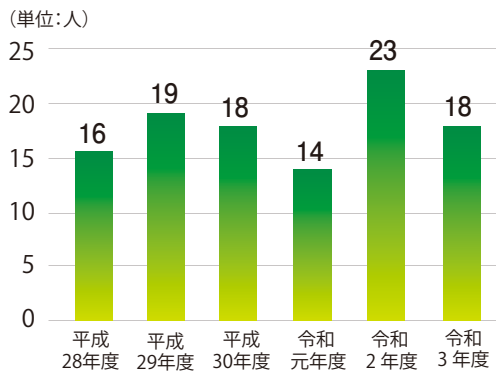
平成 28 年度より、J A 大阪市の組合員またはその家族の方で、本格的に農業に取り組もうと考えている方、及び農業後継者らを対象とした農業講座を開講しています。種まきの方法や肥料の使い方をはじめとした座学から、営農促進センターでの実地講習などの実技まで、基礎からしっかりと学びます。昨年度は、開講後最多の 23 名が受講されました。



農業講座



農業講座受講者数の推移



大阪市の新たな特産へ

イタリア野菜生産への挑戦

J A 大阪市では、令和元年度から、イタリア野菜の試験栽培を営農促進センターで行っています。

「食い倒れの街」と称される大阪。世界各国の料理店が立ち並ぶ中、イタリア料理店の多さに注目しました。消費地に近い場所・大阪市内で生産し、より新鮮でより安いイタリア野菜をレストランに提供できないか、イタリア野菜を大阪市の新たな特産にし、農業生産の拡大につなげられないかと考えたのです。

大阪市の気候や土に合う品種の特定や栽培法の研究を進め、既に 5 軒の農家で本格的な栽培が始まっています。

直売所『おいで〜菜』の店頭にも並べられるようになりました。



加工品 トレビスリゾット

生産量を増やしてきたイタリア野菜ですが、コロナ禍の影響のため、市内レストランでの活用が難しい状況になってしまいました。そこで考えたのが、日持ちする加工食品にすることです。オリジナルの加工食品を作るという新たな活用法で、レストラン以外での販路拡大に努めています。第 1 弾のトレビスリゾットに引き続き、他の加工品も開発予定です。

イタリア野菜のライブキッチン 大阪市内産イタリア野菜のライブクッキング&試食会

イタリア野菜の栽培研究と共に進めなければならないのが、野菜の PR と販路の確保です。

そこで、令和元年 11 月、イタリア外務省主導の「世界イタリア料理週間」公式イベントとして、「イタリア野菜のライブキッチン」を開催。イタリアンのシェフが、飲食店関係者や流通関係者を前に実演しながら、イタリア野菜の特徴や料理のポイントを解説しました。野菜は、大阪市内で栽培したフエンネル・ケール・ロメインレタス・トレビスなどをご用意。また、販路拡大のきっかけになればと、参加者の意見交換や交流の場も設けました。



このイベントは好評を博し、継続開催しています。3 回目となる令和 3 年度は、一般消費者を対象を拡大。イベントを通してイタリア野菜の魅力を伝え、消費拡大に繋がっていきます。

『大阪生まれのトレビスリゾット』 直売所「おいで〜菜」・移動販売で販売中！ 通販サイト「JAタウン」でも取扱い。

『大阪生まれのトレビスリゾット』

(250円)は、昨年10月から直売所「おいで〜菜」平野店で販売。移動販売でも購入できます。昨年12月からは、JAグループの通販サイト「JAタウン」でも取扱いを開始しました。

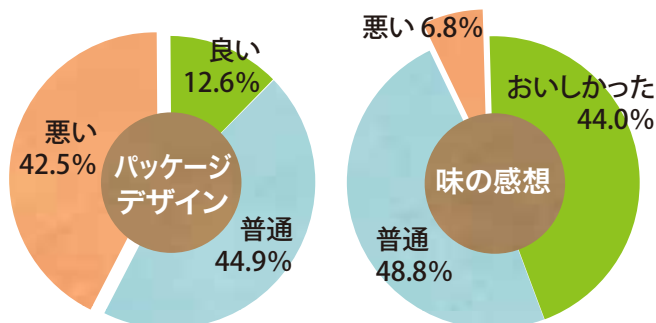
原材料のトレビスとタマネギは大阪市内産、米も大阪のおいしいお米「ヒノヒカリ」を使用しています。加工は(株)幸南食糧、ネーミングはIBU四天王大学の協力で完成しました。

トレビスには独特の苦みがあり、イタリアではリゾットやグリル、生でサラダにして食べます。日本ではあまり馴染みがないため、食べにくく感じる方も。そこで、ベーコンとチーズの旨味を加えて味のバランスを調節。トレビスの苦みを活かしながら、食べやすい口当たりの良いリゾットにするため、材料の配合を何度も調整して仕上げました。

試食配布のアンケート結果 (回答数207人)

《年齢構成》

10代	4人
20代	56人
30代	41人
40代	46人
50代	31人
60代	29人



次は、「ケールのポタージュスープ」「フェネルのスープ」を試作中です。ご期待ください！

この結果を受け、パッケージデザインを新たに考案中。中身に関しても、料理に適した秋穫れトレビスを使い、水分を少し減らすなど、より満足いただけるよう改良を計画しています。

店頭販売に先駆け、試食配布とアンケートを実施。上記のような結果となりました。ご協力いただいた皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。トレビスは万人向けではないため難しい商品開発でしたが、味に関してはまずまずの評価をいただきました。一方、パッケージデザインに関しては、改良を求めるご意見がありました。

JAタウンを
スマホで
チェック！



トレビスは紫キャベツに似ていますが、アブラナ科ではなくキク科の野菜です。

紫色は、抗酸化作用のあるアントシアニン(ポリフェノールの一種)が多く含まれている証。アントシアニンは加熱にも強いんですよ。

そんなトレビスを使い、苦みを抑えた食べやすいリゾットです。是非ご賞味ください。

直売所「おいで〜菜」平野店 大西課長代理
『野菜ソムリエ』資格も持っています！



※協会認定野菜ソムリエゲッツ(エプロン・チーフ・バッジ)を身につけた、「野菜ソムリエ」正装です。

自己改革の基本目標

「③地域の活性化」

地域に根ざした組織として、JAにできることは何か——
「一支店一地域貢献活動」と題し、各支店毎に特色ある活動を実施。
この活動はコロナ禍で活動休止を余儀なくされていますが、
地域活動の火を消すことなく、取り組みへの模索は続いていきます。

市内小学生を対象とした
田植指導と稲刈指導

JA大阪市の「田植指導」の始まりは平成17年にさかのぼり、当初は3〜4校でした。コロナ禍で直近2年は減少しましたが、出張指導16校、稲苗の提供は36校にまで増加しています。

田植えの方法を学ぶだけでなく、農業を実体験することで、農業を身近に感じ作物を育てることに興味を持って欲しい。また、米ができるまでの苦勞を感じ、栽培農家や食事を作ってくれる方へ感謝する心を育むことができれば、活動を続けていきます。

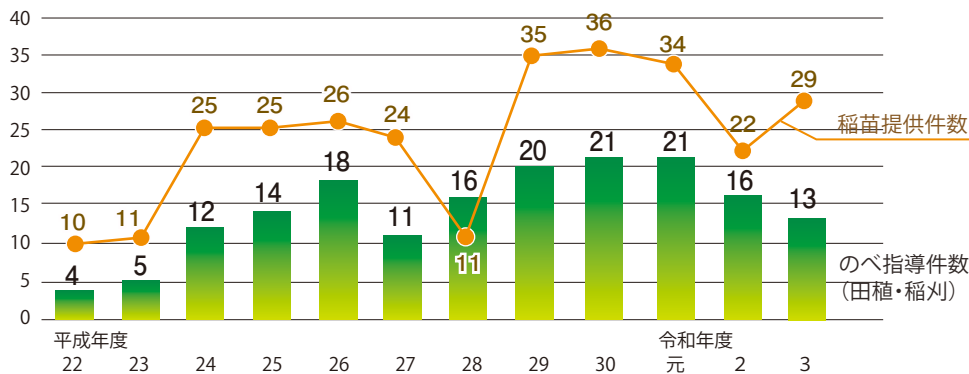


田植指導



稲刈指導

(単位:件数) 小学校での指導(田植・稲刈)のべ件数・稲苗提供件数の推移



農が担う教育的役割

食農教育の実施

JA大阪市内では、平成19年度からJAバンク食農教育応援事業を開始しました。営農促進センターでも、市内居住者を対象とした親子での農業体験を夏・秋の年2回実施。「作物を育て、収穫し、食べることまでが食育である」との考えのもと、JA役職員・なにわの伝統野菜生産者・花き生産者・女性会などJA協力組織が力を合わせ、イベントを作り上げています。参加者の思い出作りにとどまらず、家庭で市内農業について語り合うきっかけになればと願っています。



田植体験

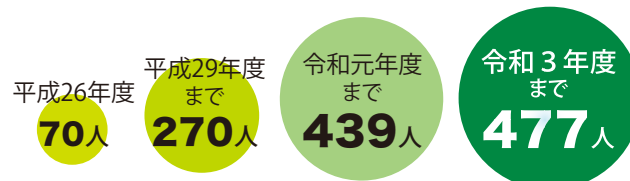


稲刈体験



いも掘り体験

親子農業体験参加のべ人数累計(平成26年度以降)



※現在は、新型コロナウイルス感染症の完成予防のため、人数制限に加え飲食と伴わない形で開催しています。(令和2年度は中止)

J A 大阪市職員が 認知症サポーター研修受講

J A 大阪市では、地域に根差した金融機関として、認知症についての正しい理解を深め、高齢者やその家族が安心して利用できる店舗づくりを目指して、認知症サポーター研修会に参加しました。

第7次中期経営計画でも、地域貢献の一環として、認知症サポーターの増員に力を入れており、認知症の方が安心して暮らせる地域社会の一助を担えるよう努めてまいります。

【認知症サポーターとは】

認知症に関する正しい知識と理解をもち、地域や職場で、認知症の人や家族に対してできる範囲で手助けをする人のことです。特別な職業や資格ではなく、自分の日常生活の中で認知症への理解と支援の心をもって行動する「応援者」です。



地域のこども食堂などへ 野菜を寄贈

J A 大阪市では、小さい子どもを抱えたひとり親世帯や地域の経済的困窮者を支援する「こども食堂」などに、野菜を寄贈しています。

寄付した野菜は、営農促進センター内で試験栽培されたイタリア野菜や、品評会に出品されたもの。品評会の野菜は、例年「農業フェア」の即売会で販売していましたが、コロナ禍のため「農業フェア」が中止となり、収穫された野菜を無駄にすることなく有効活用していただければと、寄贈することになりました。今後も引き続き、野菜の寄贈を行ってまいります。

こうした活動は、「つくる責任つかう責任」など、SDGs（持続可能な開発目標）の実践にもつながっています。



次のステップ 准組合員の皆様との対話強化

J A 大阪市がこれで行ってきた自己改革の3つの柱

- ① 農業者の所得増大
- ② 農業生産の拡大
- ③ 地域の活性化

に加え、新しい取組みとして「准組合員の皆様との対話強化」が求められています。

准組合員の声を 運営に活かす！ 准組合員モニター開始

J A（農協）は、「農業を守り、よりよい地域社会を築くこと」を目的に組織された農業協同組合です。組合員による組合員のための組織、それが協同組合。しかし、正組合員（農家）が総代会などでJ Aの運営に関与できる一方、准組合員にはその機会がありませんでした。組合員のための、地域のための組織であるために、准組合員の意見を伺うことは、今後のJ Aの運営に欠かせません。



そこで、昨年10月から「准組合員モニター」をスタート。J A 大阪市の事業や施設を見学・体験して、店舗のことイベントのこと広報のことなど、様々なご意見・要望をお伺いしています。（次ページ参照）

『准組合員モニター』

JA大阪市の支店や直売所のほか、日頃訪れる機会のない営農促進センターも見学。
JA大阪市の今を知り、JA大阪市の活動を体感し、率直な意見や希望・提案を伺います。

「農を中心に、地域社会が結束していたかつての日本。しかし現在は、地域コミュニティの在り方が大きく変わりました。大阪市のように都市化の進んだ地域では、その変化は顕著だと言えます。」

つながりや地域力の低下が問題視され「地域コミュニティの再構築」が求められる今だからこそ、「農業を守り、より良い地域社会を築く」を掲げた農業協同組合として、JAが地域で果たすべき役割がある。その想いを基に、組合運営や地域貢献の在り方を模索しています。

その模索のひとつが『准組合員モニター』です。協同組合は「組合員の組合員による組合員のための組織」。よりよい事業運営や活動を行うため、准組合員の意見を直接取り入れる新たな試みです。

今回の准組合員モニターには、3回の活動日程全てに参加できることを条件に29名が参加。当広報誌の募集記事や、店舗でチラシを見てご応募いただきました。

また、文化教室に参加している准組合員からもモニターを募集。別日程での活動を予定していましたが、コロナウイルス感染症のため延期され、10月21日に合同で行われました。

「直売所をよく利用しているが、意見を出したかった」「JAについて知るいい機会だと思った」「JAの良さが上手く伝えられていないと感じていた」など、様々な思いでご参加いただいています。

《年齢構成》

30代	1人
40代	0人
50代	3人
60代	9人
70代	13人
80代	3人

《性別》

男性	7人
女性	22人

	第1回	第2回	第3回
日程	2021年10月21日(木)	2021年11月29日(月)	2022年3月18日(金)
時間	14時から2時間程度	13時から3時間程度	13時から3時間程度



直売所見学
※移動販売も
見学予定



収穫体験
なにわの伝統野菜
「田辺大根」



懇談会



支店見学



営農促進センター見学

萌ニュース

JA大阪市の
活動やイベントを
レポート！



コンバインから勢い良く出てくる粉米に興味津々の子ども達

サツマイモ掘りと稲刈り体験 親子で収穫の秋を満喫

令和3年11月6日、営農促進センターにて「親子農業体験（秋）」を行いました。例年は親子約50名の参加ですが、コロナウイルス感染症対策のため、春秋共に参加人数を19名に制限し、全員がしっかりとマスクを着用。例年のお楽しみ、新米や採れたて野菜を使った昼食も中止となりました。

収穫の秋の農業体験は「サツマイモ掘り」と「稲刈り」です。土の中からイモが出る度に、大きさを競い合って大興奮。春に植えた稲は見事な黄金色に実り、慣れない鎌を使いながら一所懸命刈り取っていました。その後、コンバインでの稲刈りや、参加者が刈った稲穂が脱穀される様子を見学。営農促進センター内にある米の乾燥室や定温倉庫の精米ラインも見学して、普段自分たちが食べているお米がどのようにできているのかを学びました。質問タイムでは、「来年も参加することはできるのか」「今日収穫したお米はどれくらいの量なのか」といった声があがっていました。

農業体験には、その年のJA大阪市新入職員も参加。日頃の業務とは違った形で組合員と交流する、貴重な機会となっています。



野菜の写真をもとめたプリントを見ながらの授業

平野小学校3年生の課外学習 畑で組合長が先生に

大阪教育大学附属平野小学校の3年生12人が、10月中旬にJA大阪市の菱井由一組合長の畑を訪れました。小学校のカリキュラム「未来そうぞう科」課外学習の一環です。「わが町平野区のいい所発見」をテーマに、各グループで取材先を決めてインタビューに出向き、記事にまとめて平野区長らに情報を発信するというもの。そのグループの一つが、平野区は大阪市内でも農業が盛んな地域と知り、取材にやってきました。

児童らの元気な挨拶から授業と取材がスタート。菱井組合長は栽培している野菜の写真を児童に渡し、野菜の成長の様子を説明しました。児童からは「育てるのは大変ですか」「台風の時はどうしますか」「水やりの時期は」等の質問があがり、菱井組合長は丁寧に答えていました。



令和2年には、菱井組合長が大阪教育大学附属平野小学校でゲストティーチャーを務め、5年生105人を前に講演を行ったことも。今後も、農業と児童教育との連携を進めてまいります。

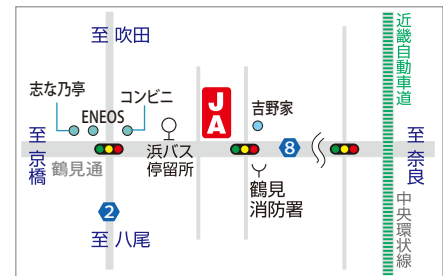
茨田支店が城東支店と統合 リフレッシュオープン



令和3年10月25日に城東支店が茨田支店へ統合され、城東支店の業務を茨田支店で引き継ぐことになりました。これに向け茨田支店では、スタッフ増員に伴う設備や備品の追加・一新などの準備を行う一方、これを機に建物自体もリフレッシュしようと、外観の洗浄

と塗装を実施。キレイになった施設で、統合の日を迎えることができました。

この間、窓口は通常営業でしたが、ATMを休止した日が数日ありました。ご利用の皆様にご不便をお掛け致しましたが、ご協力いただき御礼申し上げます。



住 所 大阪市鶴見区浜3-5-29

電話番号 06-6912-1000

長堀鶴見緑地線「鶴見緑地駅」から
南東方向へ徒歩13分

長堀鶴見緑地線「横堤駅」から
鶴見通り沿いを東へ徒歩15分



令和3年10月25日、茨田支店のリフレッシュオープンを祝うセレモニーを開催しました。

菱井組合長(写真左から3番目)は、「まだまだコロナの脅威が残っているが、一層茨田支店が反映するように役職員一体となって頑張ろう」と呼びかけました。茨田支店の廣中支店長(写真右端)は、「皆様方のご期待にお応えできるよう、職員全員努力していく」と挨拶しました。

窓の結露・寒さを「あんみつガラス」で解消しませんか?

この結露 何とかしたい

防湿 結露のない家

防音 静かな部屋

「サッシ枠はそのままガラスのみ交換」

★あんみつガラスへの簡単交換で、快適な暮らしが実現します!!

あんみつ窓 あんみつドア あんみつ床

骨

にほんの暮らしには ほんの骨を

伝えたい日本の心、骨畳。

骨はやっぱりJAで!

安心、こだわり国産畳。

3つの約束

- 1 厚み一いお付き強い
- 2 無刺ししたため
- 3 新築用アトバイス

健康で快適な住まいづくり

床下 総合 調査のお知らせ

大切な住まいのチェックを怠りませんか?

こんなこと、ありませんか?

- ・床下の湿気、虫害に気付かずに
- ・床下でシロアリを見つけたことがある
- ・床下で、トイが壊れている
- ・床下で、排水の詰まりや、水漏れがある
- ・床下で、下地の腐敗や、土壌の劣化がある

調査は 簡単ではありません。 経験豊富な技士が、 正確な診断を 行います。

調査費用は 無料です。

調査結果は 調査後、お電話でご報告いたします。

調査結果を 活用して、 住まいの 改善を 行います。

調査結果を 活用して、 住まいの 改善を 行います。

JA大阪市の最新おすすめ情報やご案内は、
ホームページをご覧ください。

JA大阪市お知らせ

検索



農業用廃棄ビニール・ポリ等処分受付のお知らせ

利用方法 ※詳細は、【廃ビ回収袋】購入にご案内します。

- 1) 各支店または営農促進センターで【廃ビ回収袋】をご購入ください。購入時に『申込書』と『委任状』をお渡しします。
- 2) 【廃ビ回収袋】に廃棄する資材を入れ、『申込書』と『委任状』に必要事項をご記入ください。
- 3) 上記を持込期間内に営農促進センターにご持参ください。『申込書』と『委任状』と共に【廃ビ回収袋】を回収します。

持込期間 令和4年 3月22日(火)~25日(金)
9:00~17:00

持込場所 営農促進センター (処分費用含む)

処分費用 【廃ビ回収袋】1袋 120L 1,700円

対象廃棄物 農業用被覆資材/肥料袋/
畔波シート農ポリ/育苗箱 など

適正廃棄へのご協力をお願い

使用済みの農業用プラスチックは、産業廃棄物に分類され、排出農家自らの手によって適正に処理されることが法律で定められています。

野焼きや投棄は、土壌汚染や大気汚染につながる他、海洋汚染問題として注目されている海洋プラスチックゴミの原因にもなってしまいます。将来につながる自然環境・農業環境を守るため、適正な廃棄へのご理解・ご協力をお願いします。

不要農薬処分受付のお知らせ

申込方法 各支店に備え付けの『申込書』と『委任状』に必要事項を記入し、各支店・営農促進センターにご提出ください。

申込締切 令和4年 1月21日(金)

持込場所 各支店(営農担当者まで)/営農促進センター

持込日時 申し込みされた方に後日ご連絡

処分費用 1kg当たり(税込) ※原則、1kg以下でも1kg以分の料金

- 一般・不明・くん煙剤・硫黄類 350円
※成分検査にて有害物質と判明した場合、別途費用が加算されます。
- クロールピクリン等・土壌クン蒸剤 1,670円
- 空容器 350円 ■ 臭化物 2,090円 ■ POPs 3,480円
- 試薬類 1,540円 ■ PCP 7,660円 ■ 水銀 7,380円

農薬の処分にお困りの 組合員の皆様へ

◎ボンベ・スプレー缶は処分対象外◎

自然環境の保全、管理不全による周辺住民や管理者の事故などを防ぐため、農薬の管理や破棄には十分な配慮が必要です。

JA大阪市では、組合員の皆様が処分に困っている不要農薬の適正処分を受け付けています。処理業者に依頼するために有料となりますが、希望される方はご利用ください。

JA大阪市 「未来につなごう 希望の光、ともに築こう 地域の輪」

本店 ☎06-6793-8701	長吉支店 ☎06-6709-2255
巽支店 ☎06-6758-0521	茨田支店 ☎06-6912-1000
加美支店 ☎06-6791-0546	東淀川支店 ☎06-6328-4567
加美南支店 ☎06-6793-8737	本店資産管理相談課 (組合員相談センター)
平野支店 ☎06-6702-0852	☎06-6791-3901
瓜破支店 ☎06-6703-0444	営農促進センター
東住吉支店 ☎06-6701-7500	☎06-6700-6111
住吉支店 ☎06-6691-0293	直売所おいで〜菜平野店
住之江支店 ☎06-6681-4174	☎06-6702-7739

◆ 組合員数	◆ 貯金残高	3,318億1,212万円
正組合員 1,064名	◆ 貸出金残高	736億3,173万円
准組合員 19,278名	◆ 長期共済保有高	5,551億5,371万円
◆ 職員数 250名	◆ 年金共済保有高	97億1,125万円
(令和3年10月末現在)	◆ 購買品供給高	1億0,090万円

JA大阪市 ホームページアドレス
<http://www.osakashi.jaosk.jp/>



本誌は、府内及び全国の一部JA(系統含む)、府内及び全国の主要図書館、関係団体、JA大阪市店頭において配布。また、JAグループ内で実施される広報誌コンクールへの応募も行っています。

進めよう! /

国消国産



[今回のテーマ]

国消国産って
なに?

「国民が必要とし消費する食料は、
できるだけその国で生産する」
という、JAグループの考え方です。



食料自給率
38%

※2019年度、
カロリーベース

世界規模での
災害発生と農業被害

日本の「非常に激しい雨」
ここ30年で

1.4倍



食を取り巻く
リスクが
増えています



平均年齢
平成の30年間で

10歳上がる

国内農業者の減少や
高齢化、農地面積の減少

世界の人口増加に
よる食料需給のひっ迫



2050年の
世界の
人口予測

97億人

新型コロナウイルス感染拡大により、
マスクの需要が急激に増えました。その
大部分を輸入に頼っていたことから、国
内は一時深刻なマスク不足に陥りまし
た。もしそれが食料であったらどうなっ
ていたでしょうか。

コロナ禍では、実際にいくつかの国が
食料の輸出を制限しました。また、食料
不足に陥っても、短期間での食料増産
は難しいです。

こうした実態を多くの国民にご理解
いただき「食料を生み出す農業・農村を
支えたい」と思う人を増やしていくこ
とが必要です。

出典：農水省 食料需給表、農林業センサス、農業構造動態調査／気象庁／国連 世界人口推計2019年版

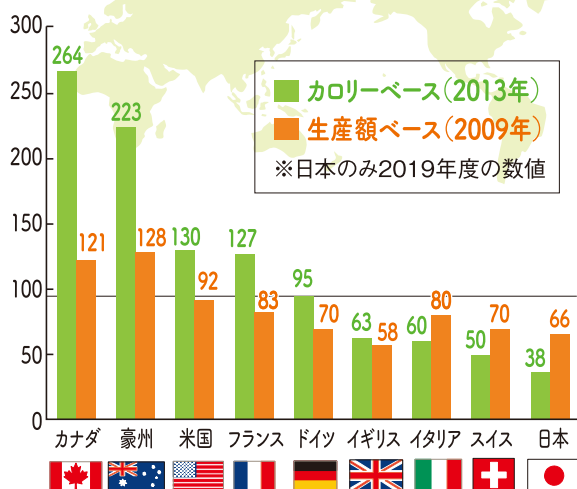
[今回のテーマ]

食料自給率
38%で大丈夫?

日本で必要とする食料を、いつまでも
外国から輸入できるとは限りません。
食料自給率を高める必要があります。



各国の食料自給率



出典：農林水産省「食料需給表」、FAO「Food Balance Sheets」
等を基に農林水産省が試算(アルコール類等は含まない)

食料自給率向上のために

1. 「いまが旬」の食べものを選びましょう
2. 地元でとれる食材を日々の食事にいかしましょう
3. ごはんを中心に、野菜をたっぷり使ったバランスのよい食事を心がけ、しっかり朝ごはんを食べましょう
4. 食べ残しを減らしましょう
5. 自給率向上を図るさまざまな取り組みを知り、試し、応援しましょう

農林水産省「フード・アクション・ニッポン」
から抜粋

日本の食料自給率は2019
年度、カロリーベースで38%。
先進国の中で最低で、食べもの
の多くを外国に頼っています。
一方、コロナ禍で自国の需要
を優先させて食料輸出を制限
した国もあります。

2030年度までに政府は食
料自給率を45%まで上げる目
標を設定しました。食料自給
率を上げるには、農業者数や
農地面積を増やし、消費者が
国産食材を積極的に選んで農
家を応援するなど、国民が力
を合わせて取り組んでいくこ
とが大切です。



耕そう、大地と地域の未来。